

梅鶯仏教壮年会報

第130号
2015年
12月13日

竹灯籠の夕べ

十二月三十日(水)

夜5時半より竹灯籠点灯
夜6時よりお勤め(正信偈)

法話
引き続き

日暮れて遠い
帰り道に
我が家の窓に
灯(あかり)が見えて、
ほのぼの感じる
あたたかさ！

待っていてくれる人がいる
そんな幸せ 感じてますか？

この世の旅の往(ゆ)く先
に
待っていてくださる如来(かた)がある
そんな幸せ 感じてますか？

寺川幽芳先生編「こころの掲示板」よ

竹灯籠



金子みすゞ・萩城下町を訪ねて

会長 森勝昭



念願の仏壮研修旅行を九月十一日から二泊三日で行ってきました。小倉までの往復と小倉からレンタカーを借りて、泊して旅費一人三万八千二百円と格安の企画セットを田中薫さんと格安の企画で見つけてくれました。この旅行の目的は、みすゞさんのふるさと散策・上山大峻先生に会える楽しみのためです。小倉からレンタカーを借りてのドライブです。レトロな地区門司港散策、ここはバナーのたたき売りの発祥地です。明治後半から昭和の初め頃まで台湾から神戸まで海上輸送されていきました。船の中で傷んで商品にならない前に一部はバナーをここに門司港に陸揚げして換金するの、露天商を介して、口上をつけて客を集め売りさばいたそうです。私のふるさと熊本でも祭りの縁日でも売っていました。出があります。

秋芳洞



山口県は北九州から関門橋を渡って山口市に入り、秋吉台を散策しました。秋芳洞・秋吉台の大河ドラマ「燃ゆ」の舞台となった、激動の幕末期を駆け抜けた、高杉晋作に想いを馳せながら、塾、玄瑞(ふみさん)の夫・高杉久坂玄瑞(ふみさん)の夫・高杉晋作・伊藤博文など生み出されたところ、感動が生まれます。二日目、上山先生のお坊訪問。坊守さんとは以前に中国シルクロードの旅で一緒にしましたので、懐かしく思いました。本堂で先生が、お寺の歴史、出版された「金子みすゞがうたう心のふるさと」の本をもとにみすゞさんの詩を解説して頂き、ありがたみです。祖母ちゃんに育てられた仏の心が伝わってきます。ホテルでの懇親会、道中では地元の名産、美味しいものを頂き感謝しながら、合掌の楽しい思い出の研修旅行でした。

松下村塾



題材法話

十一月・十二月は報恩講のシーズンです。小さい頃から「ホンコサン」と親しんできました。報恩講は親鸞聖人のご恩をしのび、そのご苦労を通して、あらためてお念仏の通み教えを悦ぶ、真宗門徒にとつてはもつとも大切な法要です。

親鸞聖人の御正忌（九月十六日）に勤められるご本山での報恩講に皆で参拝できるよう、末寺やご門徒宅では先立つて勤めるこ

とから「おとりこし」と呼ばれるようにになりました。意

そこでも、報恩講をより意義深くお勤めするため、報恩講の意味を少し考えて

みたいと思います。

○日本人の大切な言葉

「講」とは人々の集まりという意味です。報恩講とは報恩する人々の集まりとなり

では報恩、「恩に報いる」とはどのようなことなので

まず「恩」とい



う言葉は、西欧をはじめ他の国にはない言葉で、日本人にはとても大切な言葉です。

ところ、近頃「恩」という言葉をあまり使わなくな

り、そこに日本人がなくな

おかしくなつてきたのでは

ないかと指摘する人もいま

す。

ある小学校で、「親の恩をどう思いますか？」と先生が尋ねたら、ある子供が

「母親のオンは父親で、メン

は母親です」と答えたそう

です。その子供は真面目な顔で答えたそうで、それが

けになにか不安な気持ち

します。

子供が「恩」という言葉をあまり使わなくなつてき

ている。そこに問題があり

そうです。

一般的に「恩」といいますと、「恩返し」という言葉が浮かび、お世話になつた方へモノを差し上げたり謝礼をする、といった意味合いに理解されています。

そこから逆に、「恩返し

「恩返し」がましい」とか、「恩を仇で返す」なんて言葉が出



てくるんですが、実は本来の「恩」という言葉には、もつと深い意味があるので

す。

○「報恩」とは

「恩」と言う言葉の元の言葉は、インドの古い言葉で「クリタジュナ」という言葉です。

「クリタ」というのは、「なされたこと」という意味で、「ジュナ」というのは「知る」という意味です。

つまり「恩」「クリタジュナ」とは、「ある人が成したことを正しく知る」とことなのです。

したがつて、例えば「親の恩」といえば「親が私に成してくれたことを正しく知る」とことで、それは「親から命を頂いたこと」や、「親の願いによつて成長した」ことを正しく知ること

です。

そして「報いる」とは、単に「御礼を言つたり」「モノを差し上げたりする」とことではなく、「その人の願い通りに生き、



「報いる」ことの本来の意味です。

ですから、「親の恩に報いる」とは、親が私に成してくれたいことを正しく知つて、親の願い通りに生きる

ことです。

○親鸞聖人の願い

「報恩講」「親鸞聖人の恩に報いる」ことも同じこととで、親鸞聖人が成されたことを正しく知り、親鸞聖人の願い通りに生かさせて頂く。このことを喜び合う人々の集まりこそが「報恩講」なのです。

申し上げるまでもなく、親鸞聖人の「成された」とことは、「凡夫といわれる私たち」が、阿弥陀さまの願いの中になくお浄土に生まれる間違いなくお浄土に生まれる仏と成らさずして下さつたことを明らかにして下さつたこと

です。

そして親鸞聖人の恩に報いることとは、その親鸞聖人の願いに応え、共に念仏を喜び、お浄土に生まれさせ頂くことにほかなりません。

